

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.23

ヤママユ

9月16日(水)の登校時、1年生の愉快的仲間たちが、素晴らしく大きな、美しい蛾を見つけてくれました！なんと優雅で、鮮やかな黄色。大型の蛾の代表格、「ヤママユ」です。羽化して、羽を広げ、乾かしている最終段階だったのでしょくか？何一つ損傷のない優美な羽に、美しい目玉模様。その体は、もふもふとして愛らしく、まるで、ぬいぐるみのよう



です。さて、蝶や蛾によくみられるこの「目玉模様」何のためにしているかご存じですか？そうです、天敵の鳥などに襲われた際、その羽を広げ、相手がびっくりしたすきに逃げるためのものです。そんなの知っているよ！そうですね、これは初級編でした。実は、この知恵、私たち人間の世界でもよく使われています。皆さんは、周辺の畑などで、大きな目玉模様の風船のような鳥よけを目にしたことがありますね。あれです。この「目」は、鳥も恐れる「フクロウ」に擬態しているといわれています。「ヤママユ」の仲間は、成虫になると食事をしません。芋虫の時に蓄えたエネルギーで命をつなぎます。そのため、口は退化してありません。なんと合理的な生き方でしょう。いらぬものは退化し、なくなってしまうのです。さて、「ヤママユ」とは、別種の「蛾」ですが、極めて特異な「蛾」、知っていますか？それは、「蚕」です。(何と読みますか？「カイコ」です。昔の人にとって、「天の虫」と書くほど、大切な存在でした。)「カイコ」は、完全に「家畜化」され、自然界では自力で生きていくことができない虫です。仮に桑の木にとまらせても、餌である「桑の葉」を探すことすらできないのです。あれ？なんで急に「カイコ」が出てきたのかな？それは、「ヤママユ」を、別名「天蚕 テンサン」ともいうからです。苦手でない人は、その「繭」を比べてみてください。美しく柔らかい黄緑色の大きな「繭」です。そこからとれる「絹糸」は、「繊維のダイヤモンド」とも称されます。繊細な生物で、「カイコ」のように、人間が飼育することは難しく、それ故「繊維のダイヤモンド」と言われます。その美しい糸は、丈夫で光沢があり、とても高価です。ちなみに「天蚕糸」と書いて何と読むと思いますか？私も初めて知りました！「テグス」です。あの、釣り糸などに使われる(今では、ナイロンですが・・・)丈夫な糸です。(知らないことを調べると、思いがけないこととつながっていて、ますます楽しくなってきます!) どうですか！そんな素敵な歴史を持った美しい蛾、「ヤママユ」が、白井中周辺に飛んでいるのです。さて、「ヤママユ・ヤママユ・・・」と今まで書いてきましたが、この名前、1年の国語の教科書で見たことがありますね！2、3年生、もちろん覚えていますね？そうです。ヘルマン・ヘッセ作『少年の日の思い出』に登場する「クジャクヤママユ」も、この仲間です。



(1年生、これから学習しますよ!) さあ、これからは、「秋」も深まってくる頃です。「夏」とは異なる「愉快的仲間たち」が、お目見えすることでしょう。あなたの通学路、お家の周辺、そして、もちろん白井中学校も、新しい不思議、ワクワクであふれています！「秋」もまた、「楽し」です。